



## 中国北京の 22 日間

(12 月のごあいさつ)

平成 23 年 12 月 1 日 (木)

快晴なのに池に氷が張っているのを見て、沖縄の暖かさがほんとうにありがたく感じました。その時沖縄は 25 度でした。

北京外国語大学での簿記会計の講座 18 回を終えて、上達したことと言えば、車をよけること、宿舎での洗濯の要領と人混みに慣れたことである。授業等の合い間を見て、毎日 4 時間程度外出して北京のあちこちを見て回ったおかげである。

情報誌などの影響もあるが、やはり 20 余年前の日本のバブルの時の街の風景や歴史で学んだ戦前の欧米、特にアメリカに肩をいからせた一部の日本を思い出した。街に落ち着きがなく、何かが起きる前という感じもした。

北京での友達と GDP の話をした。GDP が統計数値や車の数だとするとそれは誤りだ。質の統計も算出できなければ、国富の比較は簡単にはできない。GDP は定量的な統計が主であり、定性的な質までと言うと更なる工夫が必要だと思う。GDP の量的な面を超えた品質ともいべきものである。また、それが出来たとしても街にゴミを平気で捨てたり、唾を吐く、行列や信号を無視する行動、どこでも大声でしゃべる、やたらクラクションを鳴らす、街の物売り、電車の中や街頭での物乞い、多くの貧困な人……などという礼儀、礼節、公平などの欠落を補う必要がある。それは質的な GDP をも超えた人や人の集団、社会の品格というものである。但し、街の活気はものすごい。だんだんと落ち着いて、数年もすれば経済が文化や生活も変えて行くのだとも思う。

統計などを調べたのではなく、街を歩いての一方的な観察だから余りアテにはならないが、印象が薄くなる前に書いておけば、北京のタクシーが 10 万台以上あるとして、街でその乗車率を予想すると 50% 台であろう。ところが、運転手の横柄さはオリンピックなど過去の供給不足の名残だと思う。不動産物件やマンションの販売広告ビラをいたる所で配られたが、それらは何千万円もの価格で、年収数百万円の比較的高所得の中産階級にも手がとどかない筈である。しかし、値上がりしている間はサブプライムローンでも回転する。不動産会社の店舗も心なしか暇そうだ。ホテルも多すぎるのかそんなににぎわっているとは思えない。

やはり、中国経済はまがり角に来ている。目近にせまったインフレなど大きな矛盾が内在しているという観測は正しいのではないか。

欧米にも言えることだが、日本のバブルを反省しても意味がない。バブルを醸成した原因を明らかにして、その行きすぎを事前には是正しなければ意味がない。既に宿ったものは宿る前にしか解決の方法はない。バブルがはじける時点でその時の状況や原因を議論しても意味はない。2008 年オリンピック、2010 年万国博、2012 年バブル崩壊などとは考えたくないが大きな調整は必要である。

世界経済は中国なしには考えられない。中国の健全で堅実な発展に期待したい。